



生涯学習だより

2020/ 8月号

# ピウカ

発行  
教育委員会



## 文化会館COM100の使用について

### 【利用される方へのお願い】

- 正面入口に設置している消毒液により、手指の消毒とマスクの着用にご協力ください。
- 密閉・密集・密接を避けるため扉や窓の開放にご協力ください。
- 席と席との距離を離すようご協力ください。
- 対面での飲食や会話は、なるべく避けるようにご協力ください。
- 風邪の諸症状や熱がある場合は、使用を自粛してください。

### ■おもな各室の使用人数の目安■

### 【各室の使用人数の制限】

8月1日以降の使用人数の目安は、左記のとおりとなりますので、ご確認ください。  
※社会状況により変更する場合があります。

室名	7/13~7/31	8/1~
小ホール	120人まで	120人まで
大会議室	20人まで	20人まで
小会議室	10人まで	10人まで
視聴覚室	18人まで	18人まで
サークル活動室	15人まで	15人まで
調理室	18人まで	18人まで
和室 1	10人まで	10人まで

### 【入館者名簿への記入】

新型コロナウイルスの感染が発生した場合の調査として、各室利用時に名簿への記入をお願いしています。名簿は感染発生の場合のみに使用し、他の目的には使用しません。

## 美深町史

— 特集 — 歴史をふりかえる  
開拓功労者列伝① 平喜三郎



平喜三郎は、嘉永元年（1848）富山県に生まれ、明治31年に渡道し、石狩に一時落ち着き、美深付近の地味が肥沃であることに着目し、この地方の開拓を決意し、8線川向かいに27戸の未開地貸付を受けて、明治32年5月に入植しました。（当時の美深町は下名寄村と称されていました。）

これが美深移住者の初めとされており、開拓の鍬が下ろされました。

町史によると、当時の美深は大森林であり、歩くに道無く、住むに家無く、喜三郎の入植後は小屋を建てて開墾に従事し、資材不足のため作業は進まず、一本の巨木を倒すのに一日を費やすということもしばしばあった様子であり、農耕の際は蚊やアブの害を避けるため、目だけを出して肌は全部を布で覆い、さらに腰に燻し縄を下げるなど、その苦心は並大抵なものではなく、食糧の用意が十分ではないため、ウバユリやワラビ根を食べたり、天塩川の魚類を獲るなど辛うじて糊口をしのぐ程度の生活を続け、初志の貫徹に努め、8年間にわたって借受地の墾成を遂げることができた。と記されています。（参考文献：美深町史 昭和26年刊）



移住者の伐採開墾のようす

… この特集は、テーマごとに今後も掲載していく予定です …